
Fate/another world hero

空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Fate/another world hero

【Nコード】

N0599S

【作者名】

空

【あらすじ】

第五次聖杯戦争。冬木市で起こるその戦争に、今。全世界の魔術師を驚愕させるような、最大のイレギュラーが登場した。

注)この作品は、TYPE-MOON様の作品、Fate/stay nightの二次作品です。

原作とは異なる展開や、多少のキャラ崩壊が起こる可能性があります。

Prologue (前書き)

プロローグです。

思い付かなかったのでかなり短めです。後で修正の可能性あり。

Prologue

「此処が冬木か……。」

うん、なかなか良い土地だ。霊地としても一級だし、今なら俺の研究の成果も……」

冬木の町の中心、冬木駅。そこに、亜麻色の髪の青年がいる。彼の名は麻髪あさがみ 宵瑠よる、魔術師である。

そんな彼がどうしてここ冬木市にいるかというところ、

「さあ、急ごうか。もうじき日が暮れてしまふ。ちゃんと準備をしないとな、これから始まる聖杯戦争の為に……」

そう、聖杯戦争に参加する為である。

聖杯戦争。それは、七人の魔術師が七ツのクラスに別れたサーヴァントを使役し、たった一つの聖杯を巡って殺し合う、戦争である。

無限の願望器である聖杯を手に入れるため、マスターとなる魔術師は、どんな手を使ってでも、相手に勝とうとするだろう、と宵瑠は自分の師匠から聞いていた。そのため、わざわざ聖杯戦争の開始から一ヶ月も早く、ここ冬木に来たのである。

「と、言っても。まずはこれからの居場所を確保しないと……。とりあえず、柳洞寺に行ってみるか」

夜の町を柳洞寺に向かい、歩き始める。

数分後、柳洞寺の階段下にたどり着く。

「これは……、まるで天然の要塞だな。」

やはりここを拠点とするのに間違いなかったな」

言いながら俺は柳洞寺へと繋がる階段をゆっくりと上がる。

後に。この人物が聖杯戦争最大のイレギュラーとなり、全世界の魔術師を驚愕させるような出来事を起こすとは、この時点では誰も予想することはできなかったであろう。

Prologue (後書き)

はい、ということでプロローグが終了しました。

かなり待たせた上にこれって……、すいませんとしか言いようが無いです。

とりあえず、一話からは長めの予定なのでよろしくお願いします。

「話」召喚の翌日 呆れ疲れる少年少女」（前書き）

ここまで長い間放置して申し訳ありませんでした。第一話です。

「話」「召喚の翌日 呆れ疲れる少年少女」

深夜、龍洞寺の境内。そこには思わず目を覆いたくなるほどの光が溢れていた。

「告げる。汝の身は我が下に、我が命運は汝が剣に。聖杯の寄る辺に従いこの意この理に従うなら応えよ」

その中心にある魔法陣、そこに宵瑠はいた。彼が唱えるのは、サーヴァント召喚の呪文。

「誓いを此処に。我は常世全ての善と成る者、我は常世全ての悪を敷く者。汝三大言魂を纏うもの。抑止の輪を越えて来たれ天秤の守り手、異世界の英霊よ！」

彼が詠唱を終えると同時に光が一際大きく輝いた後、弾ける。

光が収まるとそこには……。

「はあ、面倒ね。……まあ良いわ。

問うわ、貴方が私のマスター？」

黒髪長髪はかなり際どい格好をした、絶世の美女がいた。

「ああ、俺がお前のマスターだ」

「なら、サーヴァントキャスター、召喚に応じ参上したわ。よろしく、マスター」

「ああ、よろしくな」

こうして一組の主従が生まれた。一体この聖杯戦争に、どのような影響を及ぼすのだろうか……。

翌日、旧都にある古びた洋館。

「ふあ……。しまったわね……」

その一室で、一人の黒髪の少女が思案に耽っていた。その綺麗な黒髪をゴムで二つに別けながら時計を見る、そこに示されている時

刻が教えるのは、遅刻という純然たる事実のみ。

何故こんなことになったのか。思い返すのは昨夜のこと。これから始まる聖杯戦争という　遠坂家の伝統と威信をかけた　魔術師が、無限の願望器である聖杯を手に入れる為にサーヴァントという七ツのクラスに当て嵌められた英霊を呼び出し、戦う戦争。その聖杯戦争に勝つために、昨夜私はついにサーヴァントを呼び出した。

何の滞りもなく進む召喚の手順。降霊の詠唱に差し掛かる。

「…………ふう」

ほんの一瞬の気の緩み、それがもたらしたのは自身が持つ赤いペンドラントの落下であった。しかも、召喚の魔法陣のど真ん中に。幸い、召喚自体は成功した。しかし、霧が晴れて彼女の目の前に現れたのは遅しいサーヴァントの姿ではなかった。そこには誰もいない。「そんな…………！？」

もしかして失敗してしまったのだろうか…………、そんな不吉な考えが頭の中を過ぎる。一体何故…………。底の無い思考と後悔の螺旋に飲み込まれようとする彼女を現実に取り戻したのは、屋敷の一角から響いてきた轟音であった。

「もう、一体何なのよ…………！」

一度にあまりに多くの出来事が降り懸かったためか、半ば怒った状態で轟音の聞こえた部屋へ向かい、勢いよくドアを開ける。

彼女が見据える先。天井の上から何か落ちてきたのか、荒れ果てた部屋の瓦礫の中央にそれは居た。

「やれやれ…………、こんな乱暴な召喚は初めてだ」

黒い鎧に紅い服装のその男は、彼女を見据えてそう喋ったのであった。

「あー、今思い出してもイライラするわ」

皮肉った口調で喋りかけてくる　オマケに召喚されるはずのセイバーではなくアーチャーで、更に乱暴な召喚のせいで真名を思い出せないらしい　その男に、つい怒ってしまいそのまま部屋の掃除を命令したのを思い出す。

「ハア……、前途多難ね」

これからどうなるのか。早くも行き先が不安になってきた少女、遠坂凜であった。

「だから、服を着たらどうかと言っているんだが？」

呆れたように喋るのは亜麻色の髪の少年。対するは全裸の　正確にはその長く伸びた艶やかな黒髪で大事な部分は隠しているようだが　少女。

「何で服なんて着なきゃいけないのよ。面倒臭いわ」

彼女ことキャスターは、そのように言って自らの胸　少々起伏に乏しいようだが　を張った。

「私は自らの体に恥じる所など無いわ。むしろ、あなたたちは恥じる所があるから隠すんですよ」

昨日の召喚時に着ていた服は既に脱ぎ捨てているため、たださえ際どい格好は、もはや際どいを通り越して間違いなくアウトの領域に達している。

「いや……、普通は自信があっても服を着ると思うが……。とにかく、頼むから服を着てくれ。そんなんじゃこれからの生活に支障がある」

ただでさえ霊体化が出来ないんだから、と続ける少年ことキャスターのマスターである宵瑠。

そう、キャスターは霊体化が出来ないのである。原因はいくらでも思いつく。異世界からの召喚という、聖杯戦争においてのイレギユラーどころか世界中においての異常。召喚出来ただけでも奇跡に近いのだから、このくらいのごときは目を潰ろう。ただし、

「絶対服は着ろよ。朝飯が出来ているから、俺は先に行ってる。お前も服を着次第こい」

そう言い放ち、彼女の部屋から出るのであった。

一話「召喚の翌日 呆れ疲れる少年少女」(後書き)

不定期更新になると思いますが、これからはなるべく早く更新出来るように頑張りたいと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0599s/>

Fate/another world hero

2011年12月11日12時54分発行